

平成 30 年 5 月 23 日

保護者の皆様

新潟県立長岡聾学校
校長 小川 司

平成 30 年度 教育活動の重点（学校評価の取組）について（お知らせ）

入梅の候 保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
日頃より、当校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
さて、このたび平成30年度教育活動の重点（学校評価の取組）を取りまとめました。
今後、学部だよりや学級だより、寄宿舎だより等で活動の様子をお伝えしますので、お子さんの成長を見守るとともに、教育活動への一層のご理解とご協力をお願いいたします。
また、1学期末に中間アンケートによりご意見をお聞きします。その節はご協力をお願いいたします。

記

1 全校共通の取組

(1) いじめ見逃しゼロスクールの推進

いじめの定義

児童生徒に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの

当校では、すべての子どもが安心して学校生活を送りながら様々な活動に積極的に取り組み、自分の力を高めていくこと、また周りを思いやる心、周りに感謝する心を養い、よりよい集団生活を築こうとする態度を育てることを目指しています。そのため、日々のきめ細かな見守りを継続するとともに「いじめ見逃しゼロ強調月間」「いじめ見逃しゼロスクール集会」「いじめ見逃しゼロ標語・ポスター制作」「交流活動」等をとおして、いじめを見逃さない、いじめを許さない意識を醸成し、社会性を育成します。

(2) 地域と連携した教育の推進

一人一人の自立と社会参加を目指し、生活する力を高めるために、地域や社会とのつながりをもたせた教育活動の充実を図ります。園や学校との交流、事業所等での現場実習、校外学習等、様々な地域資源を活用し、人とのかかわりを重視して、地域と連携した教育を推進します。同時に、学校の教育活動の様子を地域に向けて積極的に情報発信します。

2 各学部、寄宿舎の取組

学校経営全体計画（グランドデザイン）にある4つの「年度の重点目標」から各学部、寄宿舎で重点を1つ設定しました。

お子さんの在籍する学部、寄宿舎のもののみをお届けします。学校経営全体計画及び他学部のアクションプランについては、当校ホームページをご覧ください。

平成 30 年度

幼稚部

アクション・プラン 「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」

1 指導の重点……現状と課題

昨年度は、学年学級の遊びの時間を中心に、友達とかかわろうとする力の育成について取り組んできた。その結果、友達によく注目するようになり、真似し合ったり友達を誘って一緒に遊んだり下級生にやさしくルールを教えたりする姿が見られるようになった。また、学年学級で取り上げた遊びをロング遊びの中で、異学年と一緒に楽しむ姿も見られた。

今年度は、遊びに必要なやりとりを充実させたり、自分の気付きや思い、考えをきちんと友達に伝えたりすることができるように支援していく必要がある。

昨年度に引き続き、発達段階に合わせた学年学級の遊びの設定を継続し、ルールややりとりの仕方を身に付けさせるために、チャンスをとらえた丁寧な支援を行う。また、学年で遊び込んだものを全体での遊びにつなげていながら友達とかかわろうとする力の育成に取り組んでいきたい。

2 成果……めざす子どもの姿

◇友達と言葉や身振りを使ってコミュニケーションを図る。

評価項目	評価基準
◎友達と言葉や身振り、表情、しぐさ等を使ってかかわりながら遊ぶ。	<保護者・教師> ○80%の幼児が評価項目にかかわる個別の指導計画の目標を達成する。

3 教育活動

◇友達と言葉や身振りを使ってコミュニケーションを図ることができるよう指導する。

評価項目	評価基準
◎内容や個々のねらいを明確にした学年学級の遊びを設定する。	<教師> ○月に1回、学年学級の遊びの時間を設定する。

4 運営活動

◇「幼児が友達と言葉や身振りを使ってコミュニケーションを図るための指導のあり方」について幼稚部職員全員で共通理解を図ったり、研修を行ったりする。

評価項目	評価基準
◎学年学級の遊びが効果的に行われるように幼稚部職員が共通理解をし、テーマに沿った研修をする。	<教師> ○月に2回以上、研修日を設け、テーマに沿って研修したり、共通理解を図ったりする。

*評価基準については、下記の「B基準」を示しています。

A：目標を十分に達成した B：目標を達成した C：目標を達成できなかった

平成 30 年度

小学部

アクション・プラン 「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」

1 指導の重点……現状と課題

小学部では、縦割り班での活動をとおしてお互いに伝え合うことの大切さを学んできた。そのため上学年では下学年を思いやりながら話をしたり聞いたりする姿が見られるようになってきている。しかし、改めて一人一人の児童をよく見てみると、最後まで話す人を見ていなかったり、一方的に話をして満足していたりする姿もみられる。そこで今年度は、日々の学習活動や話し合い活動などをとおして、児童の実態に応じた相手を意識した話し方、聞き方が身に付くよう、取り組んでいきたい。

2 成果……めざす子どもの姿

◇友だちとかかわり、話すこと・聞くことがしっかりできる。

評価項目	評価基準
◎相手を見て話を聞いたり、相手に伝わるように話したりするなど、相手を意識した話し方、聞き方をすることができる。	<児童・教師> ○一人一人が自分のめあてを設定し、80%以上の子どもが、個々のめあてを達成する。 ※児童へのアンケートと教師の見取りから評価する。

3 教育活動

◇話し合い活動で自分の考えを伝える、相手の考えを聞くことができるよう指導・支援する。

評価項目	評価基準
◎毎日の学習活動の中で、各自のめあてを達成するため、話し合い活動を積極的意図的に設定する。	<教師> ○朝のお話タイムを週に2回以上設定する。 ○学年部での話し合い活動を年に2回以上計画・実施する。

4 運営活動

◇友達とかかわり、話す力、聞く力を育成するための取組について家庭と連携を図る。

評価項目	評価基準
◎相手を意識した話し方聞き方を身に付けるための取組や話し合い活動の様子について、情報提供を行う。	<教師> ○学期に2回以上、学級便りで情報提供を行う。

* 評価基準については、下記の「B基準」を示しています。

A : 目標を十分に達成した B : 目標を達成した C : 目標を達成できなかった

平成 30 年度

中学部

アクション・プラン 「基礎・基本の定着と考える力の育成」

1 指導の重点……現状と課題

昨年度、日々の学習活動や学部行事等とおして、生徒たちは役割分担や必要な準備を自ら考えて行うようになってきた。しかし、友達や教師に言われるがまま動いている生徒もおり、主体性、積極性にまだ課題が残る。そこで今年度は、生徒が自ら考え、目標に向かって主体的に根気強く取り組む姿を目指す。そのために、個の実態に応じた課題や理解しやすい提示方法の工夫などを行う。また、生徒が自分たちで手順カードや日程表を作成するなどの取組をおして、自ら考えて活動する力を育んでいきたい。

2 成果……めざす生徒の姿

◇自ら課題を見つけ、根気強く取り組む生徒

評価項目	評価基準
◎生徒一人一人が目標をもち、理解するまで学習課題に取り組むことができる。	<生徒・教師> ○80%の生徒が「学習課題に積極的に取り組めた」「学習課題が理解できた」と答える（学期末アンケート）。

3 教育活動

◇ねらいや手順等を理解して学習に取り組み、自分なりの方法で表現するよう指導・支援する。

評価項目	評価基準
◎活動のねらいや手順等について、生徒が理解しやすい教材や資料を作成・提示する。 ◎学習活動や行事など様々な活動の中で、個々の実態に合った自分なりの方法で発表・表現をする場面をつくる。	<教師> ○教材や資料の作成について、80%の教師が「毎月1回以上作成した」と答える。 ○1学期に1回以上、発表・表現をする場面を設定する。

4 運営活動

◇学校・家庭で連携し、心身の安定や学習内容の定着を図る。

評価項目	評価基準
◎学校生活の様子を学年・学級たよりや連絡ノートをおして家庭に知らせる。 ◎計画的・継続的な家庭学習の支援を行う。	<教師> ○学年・学級だよりで月1回以上情報提供する。 ○80%の教師が週に1回以上家庭学習の課題を配布する。

*評価基準については、下記の「B基準」を示しています。

A：目標を十分に達成した B：目標を達成した C：目標を達成できなかった

平成 30 年度

高等部（産業技術科）

アクション・プラン 「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」

1 指導の重点……現状と課題

将来のビジョンをもち、進路決定をすることが重要となる高等部では、自立した社会人としての力を育むキャリア教育に重点をおいて取り組んでいる。昨年度はコミュニケーション能力の育成を目指し、交流活動を中心に、社会とつながる活動に力を入れ成果を挙げた。この経験を元に今年度も活動の場を広げていきたいと考える。交流の場にただいるだけではなく、自ら積極的に参加する姿勢を育てたいと考えている。周りの状況を考えて行動する力が未熟な面から、その場の空気を読み、自分の取るべき行動ができる力を育てていきたい。

2 成果……めざす生徒の姿

◇自己理解・他者理解ができる生徒。

評価項目	評価基準
◎交流活動において、他者と積極的に関わる。	<生徒・教師> ○すべての生徒がそれぞれの交流でコミュニケーションを取る。

3 教育活動

◇交流会に向けた活動の中で、コミュニケーションの大切さを指導する。

評価項目	評価基準
◎他校や他学部との交流の場を設定する。	<教師> ○交流会を年5回計画・実施する。

4 運営活動

◇社会人講話や職場見学、職場実習などの体験的な学びの機会を設定する。

評価項目	評価基準
◎社会人ろう者との懇談会、ハローワークとの連携、会社との情報交換等により、社会に出る準備のための情報提供をする。	<教師> ○講演会・懇談会を年2回計画・実施する。 ○職場見学を年1回計画・実施する。

*評価基準については、下記の「B基準」を示しています。

A：目標を十分に達成した B：目標を達成した C：目標を達成できなかった

平成 30 年度

高等部（普通科）

アクション・プラン 「基礎・基本の定着と考える力の育成」

1 指導の重点……現状と課題

高等部普通科では、卒業後、自立した生活と社会参加を目指して日々の学習活動を行っている。前・後期と2回の「校内・現場実習」を実施し目標意識をもたせて取り組んでいる。「職業生活」の学習では各学期に「喫茶接客」、「介護」、「ビルクリーニング（清掃）」を計画し外部講師による講義・実技指導を行う。11月には社会福祉協議会からの協力を得て認知症サポーター養成講座を当校を会場に計画し、地域との交流も計っていく。通年週1回の「デュアルシステム」による職業体験を長岡市内の一般事業所（高齢者福祉施設、スーパー、子育て広場、喫茶等）で行い、必要な知識、技能、態度を育て、働く喜びや仕事に継続的に取り組む意欲を育てていきたい。

2 成果……めざす生徒の姿

◇自分の課題と向き合い、課題解決（進路実現）のために取り組む生徒

評価項目	評価基準
◎一人一人が「職業生活」に対して課題をもち、取り組むことができる。	<生徒・保護者・教師> ○80%の生徒が、個々の課題を設定、自覚して学習に取り組む。

3 教育活動

◇生徒一人一人の課題を把握し、適切な指導と支援を行う。

評価項目	評価基準
◎「デュアル学習」の場を設定し、事前指導と振り返りの時間を設定する。	<教師> ○年3回デュアル学習の評価の場を設定する。

4 運営活動

◇校内実習及び現場実習の取組について、家庭と連携を行う。

評価項目	評価基準
◎「校内実習及び現場実習」の取組の様子について、情報提供をする。	<教師> ○取組の様子を年3回進路日より、月1回学級日より等で情報提供する。

* 評価基準については、下記の「B基準」を示しています。

A：目標を十分に達成した B：目標を達成した C：目標を達成できなかった

平成 30 年度

寄宿舎

アクション・プラン 「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」

1 指導の重点……現状と課題

個々で日課を過ごすことが多く、舎生間で会話する機会が減っている。

そこで、今年度は自分の意見を言う力や他の人の話を聞く力を育てることで、仲間で楽しく会話することができるようにしていきたい。

2 成果……めざす子どもの姿

◇自分の気持ちを伝えたり、他の人の話を聞いたりすることができる。

評価項目	評価基準
◎自分の気持ちを伝えたり、他の人の話を聞いたりすることができる。	<舎生> ○80%の舎生がおやつ後の「舎 ^{しや} べりタイム」で楽しく会話することができる。

3 教育活動

◇いろいろな話題で会話する機会を設定し、支援する。

評価項目	評価基準
◎舎生で一つの話題について自分の気持ちを話したり、他の人の話を聞いたりする舎べりタイムをおやつ後に設ける。	<指導員> ○月に2回、指導員の提供する話題や舎生から出される話題について会話する時間を設定し、実施する。

4 運営活動

◇会話する力を育てるための支援方法について検討する。

評価項目	評価基準
◎より楽しく自分の気持ちを話したり、他の人の話を聞いたりすることができるよう、指導員間で評価し、支援方法を検討する。	<指導員> ○年2回、支援方法について検討する機会を設ける。

* 評価基準については、下記の「B基準」を示しています。

A : 目標を十分に達成した B : 目標を達成した C : 目標を達成できなかった